

区部ユース・プラザ基本構想検討委員会  
第4回 説明資料

令和6年3月4日

## 目次

1	第3回の論点の整理	… 2
2	新たな施設の機能等について	
	（1）新たな役割	… 8
	（2）目的及び機能	… 9
	（3）区部・多摩の特色	… 1 0
	（4）運営について	… 1 1

# 1 第3回の論点の整理①

## <都が担うべき役割について>

- ・ 多様なニーズに応じられること、高校生以上の年代に対するサポートを充実させること、宿泊機能も含めて多様な体験ができることは広域的な施設としては非常に重要。
- ・ 育成、支援をする人、あるいは育成に携わる人材のそのものの育成というのが本当に大切であることから、情報共有や、研修、交流をすることは本当に大事。
- ・ 多様な青少年や社会的に孤立しやすい状態になっている若者へのアプローチを行う団体が活動しやすい環境を整備して彼らの活動を支援していくことが大きな役割ではないか。
- ・ 高校生の研究に対する関心が高まっている中、必ずしも学校の中で研究等ができる場所が自由に使えるわけでは無かったり、サイエンス、テクノロジー、アートに関しては、まだ高校生が十分に活動ができていないと感じる。そうした高校生たちや団体への支援が必要。
- ・ 広域施設、高校生以上で多様なニーズといったときの深刻なケースの想定として、現場では緊急避難的な住居の重要度が増し、ニーズが大きいことは押さえておく必要がある。
- ・ インキュベーション施設のように、多様な専門家の方々が、アドバイスしたり、人を繋いでいく取組も十分あり得る。意欲的な若者に対するサポートが出来るととても良い。

# 1 第3回の論点の整理③

## <多様性を持った運営・事業について>

- ・多様なニーズとか専門性を広域的にフォローしていくうえでは、都がすべて担うというより、それぞれのところで専門性を持ったNPO等と組んでやっていくことが前提にならざるを得ない。それは悪いことではなく、むしろプラスの意味が大きい。
- ・一つのサードプレイスの役割ではなく、様々なサードプレイスが共存することによって、様々なニーズに対して若者がこの施設を利用するときに、この場所は合わなかったけれど、ここは合うという場所をみつけられる。より広く選択肢を持てるそういった役割が事業や運営で必要となる。
- ・利用者のターゲットになっている方に何を生み出せるかということをコーディネートしていく団体というのが、こういう施設には不可欠になっているのではないか。
- ・NPOに出先機関のかたちで、シェアオフィスのように利用してもらうというのは、良いのではないか。団体が得意な分野は異なるため、相互補完しながら一緒に進めることは、一つの共同体として非常に面白く、相互の交流も図れる。

# 1 第3回の論点の整理④

## <区部と多摩の特色について>

- ・現在の多摩ユース・プラザでは、施設の中で全ての活動や体験学習を完結させようという風を感じるが、より広域に周囲を巻き込み、多様な体験ができるような形になると、体験の幅がより広がっていくのではないか。
- ・地域とのネットワークとか地元のバス会社とのネットワークとか、そういう広がりをもっと持たせた運営や事業を行っていくということが今後の多摩には求められるのではないか。
- ・高校生たちが、個人的に多摩ユース・プラザに行って、色々な学校の子たちと一緒にボランティア活動という形で、自然にまつわる環境整備などをやってみる機会はとても良い。
- ・区部ユース・プラザは一つの団体が一つのことをやっていくのではなく、色々な団体が同時多発的に多様なイベントを行っていくことで、お互いのことを知り、新たな競争が生まれていく。複数の団体が連携・交流しながらきっかけを作っていく場所ではないか。

### 【今回の検討内容】

新たな役割について再整理した上で、次のことを検討

○施設の目的及び機能

○区部と多摩の特色、新たな運営の在り方

# 1 第3回の論点の整理《補足》

## <小池委員からのご意見>

- ・知的障害と身体障害がある人の仕事体験を受け入れる場が少なく、企業などへの就職に至っていない面がある。仕事体験ができるプログラムがあると、自信を付けたり、就労に向けてどのような力を付けたらよいか考えたりする体験ができるとよい。
- ・仕事体験を通じ、同じような立場の人と交流ができる場があると良い。学校内では対象となる生徒集団が小さく、相談や趣味の話などができる友達が限られている。ユース・プラザの立地条件から移動の問題はあるが、移動手段（公共交通機関等）を使う練習になると捉えることもできる。
- ・宿泊施設を使って、生活面の自立や一人暮らしなどに向けた短期の生活訓練ができると良い。
- ・特別支援学校ではスクールバスで登校している生徒が多く、関わる人や場が限られ、年齢相応に入ってくる情報が少ない場合がある。卒業後も含めて、障害のあるなしに関わらない幅広い人との交流、交友関係を広げるような場があると良い。
- ・学校が卒業後も関わらざるを得ない障害者の生涯学習的な観点から、オンラインでのスポーツやVR体験、音楽、創作等のプログラム・イベントの企画や主催をする拠点のような役割を果たしてほしい。オンラインだと移動、体調や天候、介助者の有無によらず参加できる。そこで情報を得たりネットワークを広げたりするきっかけとなるとよい。



# 1 第3回の論点の整理《補足》 海外事例における取組①

写真：サムハムHP

## (1) 障害者の自信と自尊心を高め、ステップアップを目指す国営企業の取組

### スウェーデン：サムハム (Samhall)

- 障害者のために豊かな雇用を創出することを目的とした国営施設
- スウェーデンにおいて、多くの障害者が仕事に就いていなかった一方、障害者側では、適切なサポートを受けられることができれば、働きたいと熱望していたことが設置背景にある
- 設置した学校で職業訓練を提供。その後清掃、ケア、物流、製造などの分野で個人にあった適切な現場の業務内容にマッチングしていく
- 社会参画を目指し、障害者が自信と自尊心を高め、ステップアップできるよう、失敗しても戻る仕組みも完備

洗濯



介護サービス



倉庫保管・物流



リテールサービス



清掃



# 1 第3回の論点の整理《補足》 海外事例における取組②

写真：PlusHandicapHP、(一社)こたえのない学校HP

## (2) 障害者と健常者が一緒に学び自律して生きていくための準備を行う

### デンマーク：エグモント・ホイスコーレン

- 誰でも入れる全寮制の学校で、障害者と健常者が共に学ぶ特色を持つ。1/3が障害者で2/3が健常者。
- 特別支援学校等を卒業後、ここで数年を過ごし、地域社会で自律して生きていくための準備をする
- 障害者は、ヘルパー制度により、健常者の学生をアシスタントとして雇用できる。アシスタントは給料が支払われ、クラスメイトと一緒に学びながら、身の回りの介護や買物・旅行などの同行支援をする
- 最初は校内の部屋、慣れると少し離れた家で自活をする等、卒業後の実生活に近づくための生活訓練の仕掛けがされている

校内の寮



寮自室のバス・トイレ



ガラス工芸の授業





## 2 新たな施設の機能等について

### (1) 新たな役割

※これまでの御意見を踏まえた整理

#### <ターゲット>

高校生以上を中心とした多様な子供・若者、サポートするNPO等

#### <役割について>

宿泊機能を活かし、ここでしかできない体験ができる施設



基礎自治体では困難で都が実施する必要があるものや、広域的であればこそ可能な取組

#### イメージ (案)

##### ○多様な学びの機会の確保

- サイエンス、テクノロジー、アート等、専門性の高い学習
- インキュベーション、スタートアップの学習・体験
- 障害のある子供・若者のための仕事体験、交流の場

##### ○NPO団体等の支援の場

- 若者へのアプローチなどを担う団体等の活動（イベント利用等）・交流の場
- 指導者への研修

## 2 新たな施設の機能等について

### (2) 目的及び機能

	現在	新たな考え方（イメージ）
目的	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 青少年の自立と社会性の発達を支援</li><li>➤ 生涯学習の振興</li></ul>	<p>「<b>子供・若者の自立と社会性の発達の支援</b>」</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 様々な困難を抱える子供・若者の増加</li><li>・ 体験活動が重要である一方、機会は減少している</li></ul>
機能	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ <b>主体的活動や交流の場の支援</b> （青少年）団体の自主的活動や交流の場の提供、青少年の創造・発信を支援</li><li>➤ <b>体験学習の場</b> 自然体験等様々なプログラムを用意し、多様な体験学習を提供・支援</li><li>➤ <b>自立（律）を促す場</b> 青少年が模索しながら、自分を発見し、自立していく過程を支援</li><li>➤ <b>ネットワークの拠点</b> 区市町村や青少年機関・団体などを支援するセンター</li></ul>	<p>「<b>多様な体験ができる場</b>」</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 孤立しやすい状態の青少年へのアプローチも重要</li><li>・ 多様な体験活動を通すことにより、青少年が自立への意欲を高め、成長することに繋がる</li></ul> <p>「<b>子供・若者を支えるネットワークの場</b>」</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 子供・若者を支援するNPO団体等の交流や情報交換の機会が必要</li></ul>

## 2 新たな施設の機能等について

### (3) 区部・多摩の特色

#### 現在の考え方

区部

#### 「文化スポーツ型施設」

- 青少年を中心として、多くの都民が文化芸術活動やスポーツ活動を通して交流、学習、研修活動などを行う拠点
- 日帰り、宿泊、勤務終了後の夜間において気軽に活動できる場を提供
- 周辺の体育施設や公園施設等を活用して幅広い都民の利用や多彩な事業を展開

多摩

#### 「野外活動型施設」

- 多摩地域の自然環境、野外施設等を生かした多様な体験学習活動や交流を行う拠点
- 関係機関等とのネットワークを活用し、野外活動、自然体験、環境学習等に関する情報の収集・提供
- 近隣の福祉施設や関係団体等と連携した様々なボランティア活動、体験プログラムを提供

#### 新たな機能における特色（イメージ）

#### 《前回の御意見より》

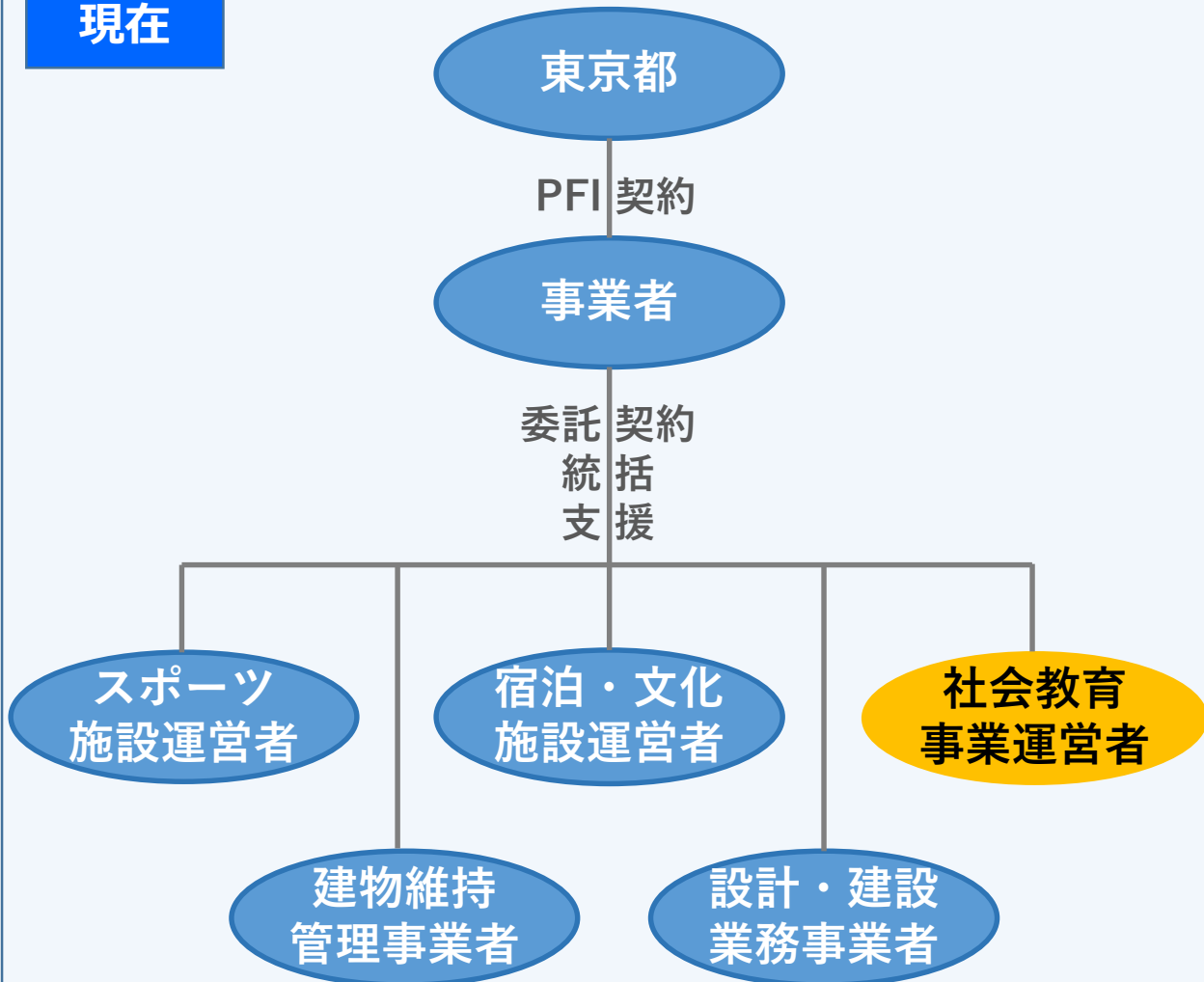
○複数の団体が同時に様々なことを行い、交流・連携していく場

- 施設内で完結するのではなく、広域に、周囲の自然環境の活用や近隣施設との連携による取組を増加させるべき
- 高校生などのボランティアを増やし、自然にまつわる環境整備などを行う機会を増やすべき

## 2 新たな施設の機能等について

### (4) 運営について

現在



### 新たな機能を行うための運営について

《前回の御意見より》

- 多様なニーズや専門性などをフォローするため、都が全て担うのではなく、それぞれの専門性を持ったNPO等と組むことが前提
- 利用者のターゲットに、何を生み出せるかをコーディネートしていく団体が不可欠
- 若者自身が運営に携われることが重要
- 施設側で、複数団体が協働で場所を共有しながら定期的な相談会などを開催していくような取組を支援